

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○分かりやすい発問により、基礎・基本の知識・技能の定着を図る。
 ○児童の学ぶ意欲を引き出し、自ら考え、主体的に判断・行動できる力を育てる学習指導の充実・改善を図る。

阿南市立椿泊小学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教務主任・3・5年 担任 村上 悦久	委員 校長 金森 利至 2年主任 鎌田 江美
----------------------------------	---------------------------

校長

金森 利至

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○音読・漢字の書き取り・計算練習を繰り返し行うことにより、基礎的・基本的な力はつきつつある。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・文章を読んで、その内容を正確に理解することができる。 ・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・少人数のメリットを生かし、個別指導を徹底する。 ・発問を工夫し、習得している知識や技能を生かす場面を設定する。			身に付けた知識等を表現するために、書く活動の機会を多く取り入れる。また、単に文章に書くだけでなく、思考ツールなどを積極的に活用することで、児童の考え方や表現方法を広げていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝会でのスピーチ・他校との交流や学校行事等において、自分の考えを発表することができるようになってきた。 ●とっさの場面でも筋道を立てて話せるようにする。	・自身で学習の筋道を立てて課題解決に向かうことができる。 ・目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを豊かに表現できる。 ・友達の考えを尊重し、比較しながら、自分の考えを広めたり深めたりできる。	・児童の思考の流れを作るために ICT を活用する。 ・タブレットの活用、話し合い形態の工夫、表現の機会の確保など言語活動の充実を図る。 ・ICT を活用し、他校児童と意見を交換する場を設ける。			より分かりやすく伝えるための表現力の育成を図っていきたい。情報を比較・整理してまとめる力の育成を目指したい。タブレットの仕様を自分たちで判断し、必要に応じて、活用できるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して興味・関心を持ち、一生懸命に問題解決を図ろうとする。 ●自主学習の質の向上が課題である。 ●学校(児童)評価で「家で自分から進んで読書や学習をしている」のポイントが低かった。より良い読書の習慣が身に付くようにする。	・主体的に学習に取り組むことができる。 ・自主学習のやり方を確認し、工夫した学習をすることができる。 ・家庭や休み時間にも自分から進んで読書をすることができる。	・教師が自主学習の仕方を指導したり、児童間でノートを紹介し合ったりさせる。(工夫を凝らした自主学習ノートを背面黒板に掲示する。) ・学校図書館サポーターと連携し、図書コーナーを設置し、図書の紹介や感想文の掲示などを行う。			異学年間でもノートの紹介・交換の取組を行う。また、読書については、上学年が下学年の児童に対し「読み聞かせ」を行う機会を作る。そして、更なる図書コーナーの充実を図る。

令和5年度 学力向上ロードマップ

